［た　よ　り］

福岡県支部だより

隈　博政

1　沿　革

昭和52年1月23日に，透析医療の向上と透析施設運営の円滑化および施設間の融和を図ることを目的として，福岡県血液透析施設協議会（江本侃一会長）が設立されました．

その背景には，昭和41年の腹膜潅流に続いて昭和43年に血液透析（人工腎臓）が保険適応となり，さらに昭和47年10月に更生医療が採用され，飛躍的に透析医療が普及し透析施設が次々と増加したことがあります．その結果，各透析施設間の連絡の必要性が高まり，また医師会や行政あるいは保険審査会に対する交渉窓口が必要となってきました．さらに昭和48年に結成された福岡県腎臓病患者連絡協議会の活動に応じた医療提供者側の組織も必要となってきました．

治療成績の向上もあり透析患者数が増え続け，国民医療費に占める透析医療費の割合が増えると，昭和52年に第1回目の透析医療費の引き締め（20～30%のダウン）が行われました．まさに当会設立年の出来事で，発起人の先生方の先見の明と行動力に頭が下がります．

昭和54年4月15日の都道府県透析医会連合会の設立に，当会の後藤宏一郎先生が参画され活躍されました．都道府県透析医会連合会の意見が保険改定になかなか反映されないことから，昭和57年より社団法人設立を目指して昭和60年に日本透析医会と改称し，昭和62年に社団法人として再発足しました．

時を同じくして福岡県血液透析施設協議会も昭和57年より，県医師会を通じて日本医師会へ意見を述べるためには県医師会の専門医会となるべきだと，中村定敏会長の下で積極的に取り組みましたが，まだ機が熟せず一旦は断念せざるをえませんでした．その後も県医師会の専門医会となるための地道な努力が後藤宏一郎会長，合屋忠信会長，藤見惺会長の下で続けられました．

平成2年に財団法人福岡県腎臓バンク設立の発起人として元会長の藤見惺先生および市丸喜一郎会長が参画し，同設立以降は当会会長が理事として参加するなどの公的活動もあり，平成4年3月より県医師会専門医会の連絡協議会にオブザーバーとして出席できるようになり，日本医師会生涯教育講座を実施するなどの公的活動をさらに広げました．平成7年1月に南浩会長の下で施設単位入会の「福岡県血液透析施設協議会」を個人単位入会の「福岡県透析医会」に移行させ，同年7月3日に木村耕三会長のご活躍で念願の福岡県医師会の専門医会入会を果たすことができました．

元会長の中村定敏先生が福岡県医師会理事，常任理事，専務理事として活躍しておられたこと，および元会長の藤見惺先生が社団法人日本臓器移植ネットワーク西日本ブロックセンターの事務局長として活躍しておられたことが，県医師会の理解を得た大きな理由でもありました．

2　最近の活動

本会会則第2条に「本会は，適正な透析療法の普

福岡県透析医会会長

及，技術の向上及び関係者の教育，研修を行なうと共に，腎不全対策の推進の為の事業を行ない，以て会員の倫理の昂揚及び資質の向上と社会福祉を増進することを目的とする.」と定めています.

その目的達成のために，平成15年度の活動目標として次の2つを掲げました.

① 医療事故防止，院内感染防止，災害時透析医療対策の危機管理を重点課題とする.

② 医療保険改定におけるさらなるマイナス改定を防ぐために，日本透析医会や日本透析医学会などとの連携を密にする.

そのために，副会長を2人から3人に増員して各地域ブロック（北九州・筑豊ブロック，福岡ブロック，筑後ブロック）ごとに副会長を置き，3人の副会長が目標①にあげた3つの重点課題を分担して当たるようにしました．また，3つの重点課題ごとに各ブロック担当理事を1名ずつ置き（副会長がその任に当たっている場合はその副会長がブロック理事を兼ねる），各ブロック内で情報収集，処理ができるようにしました.

さらに，目標①のための学術・講演会を定例の講演会とし，その運営に重点課題の各担当理事と，学術教育担当理事が当たることとしました．本年度は，学術教育担当委員長（平方秀樹先生）のご尽力で，下記の学術講演会が計画されています.

1. 感染症対策学術講演会
   日時：9月4日（木）
   講師：山﨑親雄先生（増子記念病院，日本透析医会会長）
   演題：「透析室の感染症対策」
   日医生涯教育講座3単位申請中
2. 医療事故対策学術講演会（福岡県透析医会安全管理セミナー）
   日時：10月16日（木）
   講師：秋澤忠男先生（和歌山県立医科大学　血液浄化センター　教授）
   演題：「透析医療事故の実際と対策」
   日医生涯教育講座3単位申請中
3. 学術教育講演会
   日時：12月11日（木）
   講師：斉藤明先生（東海大学医学部　教授）
   演題：「次世代人工腎臓と腎機能の回復」
   日医生涯教育講座3単位申請予定
4. 定期総会（毎年1月）時に，特別講演実施

感染症対策では今年になり重症急性呼吸器症候群（SARS）対策が大きな問題となりました．国立感染症研究所のホームページや日本医師会あるいは行政（県や市）から情報を収集し，会員にe-mailで配信するとともに印刷物として送付し，注意を喚起しました．また，行政（福岡県や福岡市）に対策の現状を問いあわせ，問題点を提起しました．日本透析医会のホームページの「会員のページ」−「SARSに関する透析室対応について」へアクセスすることを会員にe-mailで勧めています．SARSの感染予防について患者側への協力要請を，「福岡腎臓病患者連絡協議会（福腎協）の役員と当会理事の懇談会」や「福腎協結成30周年記念大会」において口頭で，また福腎協事務局へ資料を添付した書類で行いました.

災害時透析医療対策としては，西暦2000年問題対策時に作ったFAX連絡網の連絡用紙のフォーム改訂を行い，次にFAX連絡網の再編成を検討中です．また，昨年度，会員施設の固定電話および透析担当責任者（医師）の携帯電話の災害時優先登録を推進しました．さらにホームページの立ち上げを検討しています.

そのほかの活動をいくつかあげますと，通院送迎など介護保険に関するアンケートを実施したり，献腎移植登録補助や臓器移植普及街頭キャンペーンへの参加を通じて腎移植推進に協力しています.

昭和56年より毎年行われている「福腎協の役員と当会理事の懇談会」では，患者側からの要望や質問に答えるとともに，介護保険や保険改定など透析医療の抱えている社会的問題を話し合っています.

保険改定に向けては，会員から要望をアンケートで汲み上げ，福岡県医師会へ要望書を提出しています.

3　会員状況と今後の問題点

平成15年7月現在で会員数97名（施設数96），未加入施設が43施設です.

会員資格が「原則として福岡県医師会会員であること」となっており，新規開業で医師会未入会が増えてくると未加入施設が増えます．また入会の必要性やメリットを感じにくい点が勤務医の入会が少ない理由と考えられます．そこで，定款の一部および運用の見直

しを検討して未加入施設代表者の加入を促すとともに，施設代表者のみならず勤務医の入会を勧めていくことが必要と考えています．そして，診療技術の標準化（底上げという意味でのレベルアップでもあるし，保険診療面での適正化でもある），危機管理（最近は安全管理と言われている，感染予防・医療事故防止・災害時医療）において指導的役割を果たし，そのような重要な情報を迅速に伝達することで会員にメリットを感じていただくことが，活性化および入会促進の方向性かと考えています．

「透析患者さんのため」「会員のため」という基本を見据えて，現在および未来の透析医療を守るためには，全透析医が県透析医会に結集し，日本透析医会と連携することが強く望まれます．

福岡県血液透析施設協議会　歴代会長（敬称略）と特記事項

昭和 52，53 年	江本　侃一	昭和 52 年　1 月	福岡県血液透析施設協議会設立
昭和 54，55 年	江本　侃一	昭和 54 年　4 月	都道府県透析医会連合会設立
昭和 56，57 年	中村　定敏		
昭和 58，59 年	後藤　宏一郎		
昭和 60，61 年	合屋　忠信	昭和 60 年　7 月	日本透析医会と改称
昭和 62，63 年	藤見　惺	昭和 62 年	社団法人日本透析医会として再発足
平成　1，2 年	市丸　喜一郎	平成　2 年	福岡県腎バンク設立
平成　3，4 年	佐田　禎造		
平成　5，6 年	南　浩		

福岡県透析医会　歴代会長（敬称略）と特記事項

平成　7，8 年	木村　耕三	平成　7 年　1 月	福岡県透析医会と改称，7 月　県医師会専門医会に入会
平成　9，10 年	木村　耕太郎		
平成 11，12 年	東　泰宏		
平成 13，14 年	今立　俊一		